

学校評価 令和4年度回答結果のまとめ

横浜市立六浦南小学校

校長 柏原 奈保

早春の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度の「学校評価アンケート」の集計結果と分析をご報告申し上げます。この「結果まとめ」をこれからの学校運営に活かしてまいりたいと思います。アンケートのご協力、ありがとうございました。

○実施日 令和4年12月

○回答数 208名

○結果の分析

※「肯定的回答」とは、アンケートにおいて、「そう思う」「だいたいそう思う」とを合わせた数値です。

※「否定的回答」とは、アンケートにおいて、「あまりそう思わない」「そう思わない」とを合わせた数値です。

小数第一位を四捨五入のため合計が100%にならない場合もあります。

()内の数値は昨年度のものです。

項目	評価項目	肯定的回答	否定的回答	分からない
1	<確かな学力>学校は、基礎・基本の定着に重点を置き、「学び合い」を重視した授業や主体的に問題解決する授業を通して、児童の資質・能力の育成を図っている。	85% (76%)	8% (17%)	7% (7%)
2	<豊かな心>学校は、相手の気持ちを考えて「伝える」「受けとめる」「想像する」活動を大切にし、よりよい人間関係を築こうとする姿を育成している。	84% (91%)	7% (6%)	9% (3%)
3	<健やかな体>学校は、自己の健康を見つめ、体力の維持増進などに向けた取組を行っている。	89% (83%)	10% (14%)	1% (3%)
4	<児童指導>学校は、児童一人ひとりに目を配り、課題をとらえて指導をし、児童理解と支援の体制を充実させ、問題の未然防止に努めている。	83% (93%)	10% (5%)	7% (2%)
5	<保健管理>学校は、毎朝の健康観察などに取り組み、児童が周囲の環境や自他の心身の健康に目を向け、自分たちの課題を把握し、解決する力を育成している。	88% (81%)	7% (15%)	5% (4%)

6	<特別支援教育>学校は、学級で学習や生活に困り感を抱いている子どもに、入り込みや取り出し授業などを行い、落ち着いて過ごせるような学習環境の実現に努めている。	71% (66%)	8% (5%)	21% (29%)
7	<地域連携>学校は、保護者、地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努めるとともに、懇話会などを通して、「まちの子ども」を育てるようにしている。	73%	13%	13%
8	<いじめ対応>学校は、多様な視点から児童の様子を観察し、全校の子どもたちが「いじめのない明るく楽しい学校生活」を送ることができるよう、いじめの防止、いじめの早期発見・早期対応に取り組んでいる。	68% (64%)	12% (10%)	21% (26%)

[考察]

1 <確かな学力>

タブレット端末が全児童に導入されて2年目であり、教師と児童がタブレット端末を活用して、分かりやすい授業づくりに取り組んだ。特にどの児童一人も取り残すことのない学びの実現を目指した教材研究を行い、授業を実践した。また、校内通級を行い、基礎基本をさらに定着させたい児童への支援も行った。今年度の横浜市学習状況テストの結果から、全校的にさらなる基礎基本の定着が必要と感じる。さらに基礎・基本を意識した授業づくりに取り組みたい。

2 <豊かな心>

『だれもが』『安心して』『豊かに』生活できる学校を目指して日々取り組んだ。職員の人権研修を定期的に行い、人権意識をさらに高められるようにした。道徳の授業や学校教育全体を通して、子どもたちの人権感覚を養い、他者とのよりよい関わりを学べるようにした。また、6年生の「子ども会議」での話し合いから、挨拶を推進し、運営委員会を中心に挨拶運動を行う取組があった。コロナ禍において、友だちとの関わりが希薄になり、よりよい関係づくりが難しくなっている昨今であったが、制限が緩和され行事等も増えてきた今こそ、互いに思い合える人間関係が築けるよう、引き続き努力していく必要がある。前年度より、質問に対して分からないと答えた人の比率がやや上がっているので、学校としての取組をさらに地域・保護者にアピールする必要がある。

3 <健やかな体>

学校保健委員会で、『健康で笑顔な人を目指そう』という目標で給食の残食を減らし、野菜を好きになるための取組を各クラスで話し合い、実践した。また、保健委員会と運動委員会が短縄集会を企画して体を動かす機会をつくり、給食をたくさん食べることへつながる働きかけをした。その結果、年度当初に比べて残食が少しずつ減ってきた。運動委員会は、外に出る機会を増やす取組として、ブロック間でのドッチボール交流を企画した。体育の授業は、感染対策を講じながら行い、2年ぶりにプールでの学習を実施した。プールでの学習の実施も水辺での命を守る運動として意味のある時間となったのではないかと思う。

4 <児童指導>

昨年度同様、「学校の決まり」を配布して、各家庭に六浦南小スタンダードを周知した。六浦南スタンダードがあることで、一貫した指導を実現し、盗難や紛失のトラブル、不公平感やいじめや差別の抑止になることを理解していただけるよう、今後も努めていく。問題行動に対しては、これまでと同様に管理職、児童専任、担任、学年がチーム一体となって取り組んできた。また、iPadの使用ルールも同様に、時代や子どもの実態に合ったルールであるか常に子どもの立場になって考え、改善・周知していきたい。

5 <保健管理>

感染症予防における手洗いや検温、健康観察の徹底などの対策が広く認知され、予防の意識をもって取り組んでいると考える。一方で、ハンカチを携帯していない児童も多く見られ、基本的な習慣の確立も課題となっている。教室への二酸化炭素測定機の設置により、今まで以上に環境整備が整ってきている。また、生活習慣、特にバランスよく食べることへの取組や、運動習慣など幅広い取組を行った。保健室前や各所に児童が興味をもてるような保健関係の掲示を行い、健康管理の大切さを訴えた。

6 <特別支援教育>

児童に配慮した学習計画や支援の形(校内通級)を考え、充実させていくことができた。また、作成した教育支援計画・指導計画を定期的に見直したり、保護者と共有したりすることで、支援に生かすことができた。心の専門家であるスクールカウンセラーを活用し、児童や保護者の悩みに対して、専門的な知識・経験に基づいて適切に相談に応じた。昨年度より肯定的評価が上がったが、「分からない」と回答された方がまだ20%近くおり、支援体制や取り組みを適宜伝えていく必要があると感じる。

7 <地域連携>

図書ボランティアを募り、子ども達に本の読み聞かせを行っていただくと同時に、図書館のよりよい環境づくりの手伝いをしていただいた。5年生の総合的な学習では、地域の方のアドバイスを受けながら正門の花壇の手入れを行った。また、2年生の町たんけんや1年生の竹とんぼ体験、4年生の上郷の学習などでも地域の方のアドバイスやご指導をいただく場面があった。学校懇話会では学校の現状を知っていただき、様々な角度から意見をいただいた。

8 <いじめ対応>

今年度もいじめアンケートなどを活用して、いじめの早期発見や防止に努めた。児童専任、管理職、学年チームが一体となっていじめや問題行動、情報共有や人間関係の変化などに敏感に対処した。職員会議や打ち合わせ、児童指導委員会などで、児童情報を職員間で盛んに共有した。また、児童専任が中心となって朝会の際、児童全員にいじめに関する知識や適切な態度を具体的に伝える活動を行った。しかし、昨年度より減ったが21%の方が「分からない」と回答されている。いじめ対応についての学校の内容が、伝わりにくい側面があると思われる。